



普及センターだより

農業でのICT活用

ICT（情報通信技術）は、情報処理や通信に関する技術、設備、サービスなどの総称で、医療や介護、防災をはじめ多くの分野において活用が始まっています。

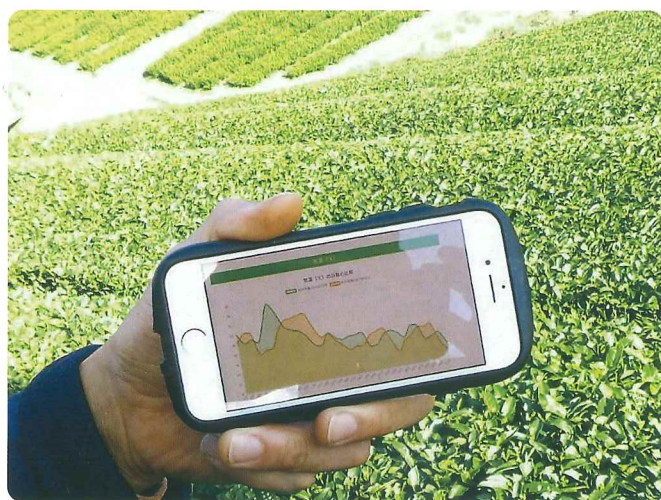
農業分野では、作物の生育環境（日照や温湿度等）のリアルタイムな把握によって、最適な栽培管理方法の選択や、ほ場毎の作業や生育の状況の集約により、経営の効率化や作業の省力化に繋げること等に、ICTが活用され始めています。

京都府においても、農林水産技術センターが京都大学と共同で研究を進めており、スマートフォンによる水稻の穂肥量や収穫適期の判定が技術開発中であるなど、今後、多くの農業生産現場へのICT活用が期待されます。

今回は、山城地域で取り組まれている万願寺とうがらしと宇治茶生産でのICT活用事例を紹介します。



万願寺とうがらしハウスに温度センサーを設置し、24時間記録



茶園に生育環境測定装置を設置、栽培に活かすデータを蓄積

京都府山城北農業改良普及センター

〒610-0331
京田辺市田辺明田1

TEL.0774-62-8686

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/fukyu/> からどうぞ

京都府山城南農業改良普及センター

〒619-0214
木津川市木津上戸18 TEL.0774-72-0237

万願寺とうがらしでのICT活用

農林センター園芸部が実施する現地試験では、山城北・南普及センター管内の生産者の方の協力を得て、6カ所のビニルハウスに遠隔リアルタイム監視が出来る機器を設置・測定して調査を行い、平成30年からハウスの開閉時刻と万願寺とうがらしの生育状況との関係についての調査を進めています。



万願寺とうがらしの生育を調査

これまで農林センターでの研究から次のことが分かってきました。

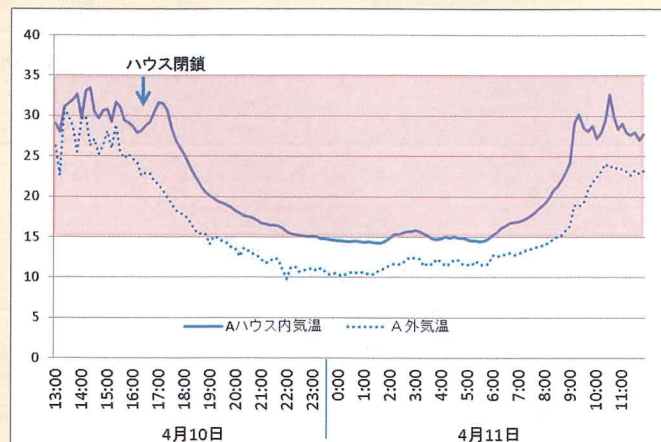
万願寺とうがらしは、

- ① 日中30~35℃、35~40℃、40~45℃で5日間栽培したところ、正常果率は、処理温度が高くなるに従い、低下する傾向が認められた。
- ② 夜間12℃の温度に5日間遭遇すると、正常果率が低下した。

ICTである遠隔リアルタイム監視システムの導入により、現場にいなくても手元のスマートフォンやパソコンで温度や湿度等の状態を確認することが可能となります。上記の研究結果(①~②)を踏まえた万願寺とうがらしの生育に好適な栽培管理が従来より効率的・効果的に実施することが出来ました。

システムを活用することで可能となった管理方法

- 昼間に高温になるのを防止
ハウス内温度が35℃を超える前に、タイミングを逃すことなくハウスを開けて温度を下げ、適温に保つことができました。
- 夜間に低温になる時間を減少
ハウス内温度が早い時間帯から低下しそうな場合は、夕方早めにハウスを閉め、夜温が12℃以下になる時間を少なくすることができました。



早めにハウスを閉めることで夜間の低温になる時間を少なくできた。(山城地域 平成30年測定)

さらに、温度管理が大切な4月中にはスマートフォンアプリのLINEを使い、ハウスの開閉時間とその時の温度を生産者グループ内で共有する取組も進めています。この取組では、「グループ仲間の温度管理がわかって参考になった」などの意見が寄せられています。

これらの活動結果をもとに栽培の経験が浅い生産者へ技術継承するための栽培マニュアルを作成し、万願寺とうがらしの生産性向上と産地活性化に役立てる予定です。

生産者の感想

開閉の判断のために、いちいちハウスに行き、温度を確認する手間が減った。



外出している時でも出先から温度を確認できる。スタッフに指示を出しやすい。

どんな気象条件が「良質な宇治茶」を育むのか?

~宇治茶の生産力向上プロジェクトの紹介~

宇治茶ブランド拡大協議会*では府の事業活用により、現在、茶産地10カ所で「気象観測装置」を設置、気温、土壌温度・水分、降雨量、日射量など12の気象項目を計測しています。これらの観測データは茶生産者や関係機関同士で共有するため、パソコンやスマートフォンで閲覧が可能です。閲覧を希望する方は普及センターまでお問い合わせください。現在のところ、観測データを活用したクワシロカイガラムシの「ふ化予測」や、年次や茶園を比較したグラフ等を表示できます(下図参照)。今後は予測等の精度を上げるために観測地点が増やされる予定で、良質茶生産に向けた茶園管理に活用できるシステム開発が期待されます。

普及センターでは平成30年度から協議会に参画し、ブランド力向上のためのデータの活かし方を検討しています。

*宇治茶ブランド拡大協議会：平成26年に宇治茶産業の競争力強化とブランド力向上に向け、生産者を核とする茶業界全体で新たな事業展開体制の確立を目指すために設立された団体。(http://www.gfkyoto.jp/uji/index.html)
会員：(公社)京都府茶業会議所、京都府茶生産協議会、京都府茶協同組合、全農京都府本部、宇治市、茶業研究所、NPO法人京都・地球みらい機構

気象観測装置設置茶園

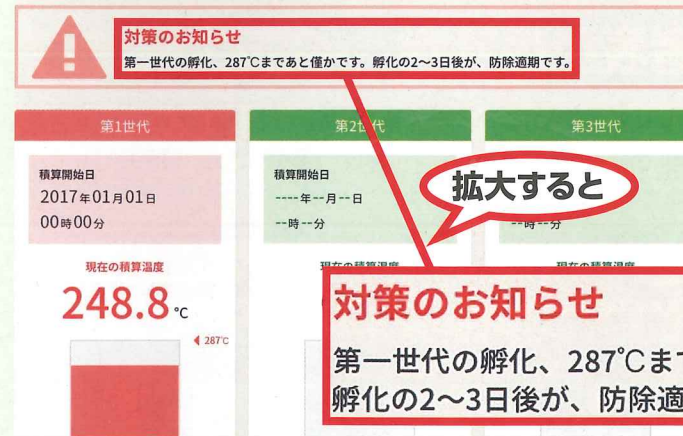


宇治茶ブランド拡大協議会



〇〇茶園

2017年05月24日



クワシロカイガラムシの防除適期予測画面(イメージ)

〇〇茶園

〇〇茶園の天気

2017年8月25日



現年と過去の気温の推移を確認

GAP認証取得を目指して ~JA京都やましろネギ部会支援~

JA京都やましろネギ部会では、グローバルGAP団体認証の取得を目指しています。

グローバルGAP (Good Agricultural Practice 良い農業の実践) は、国際水準GAPのひとつで、この認証を取得することによって、生産物に対する信頼性が高まり、取引先が広がるのが期待されます。普及センターでは、JA京都やましろと協力して、ネギ部会員の施設を巡回し、審査項目である農場管理システム、土壌と作物養分管理、農薬や廃棄物の管理、農産物の安全性と食品衛生、労働安全、人権保護などの取組事項について、抽出された課題の解決に向け、助言・指導を行っています。



ネギ部会でグループワーク

茶品評会審査結果

入賞された皆様 おめでとうございます。

☆第71回関西茶品評会

<農林水産大臣賞>

玉露	山下 新貴 さん (京田辺市)
てん茶	山崎 一平 さん (宇治市)

<産地賞>

玉露	京田辺市
てん茶	宇治市

☆第72回全国茶品評会

<農林水産大臣賞>

かぶせ茶	勝谷 健士 さん (宇治田原町)
てん茶	山崎 省吾 さん (宇治市)

<産地賞>

てん茶	宇治市
-----	-----

平成30年度 新規認定「農の匠」(京都府農山漁村伝承優秀技能)の紹介

登録された技能の中から、極めて希少価値が高く優秀な技能保持者の方々を京都府が認定しています。



古川 美子 さん (城陽市)

覆い下茶生産に用いる「こも」の生産



奥西 龍男 さん (京田辺市)

えびいもの高品質安定生産

平成30年度 京都府農林水産業功労者表彰受賞者 おめでとうございます。

堀井 政弘 さん (城陽市)
長村 信幸 さん (八幡市)

小嶋 秀夫 さん (木津川市)
吉川 保男 さん (久御山町)

八幡市ねぎ出荷組合 (八幡市)
京・はちまん

平成30年度 京都府若手農林漁業者表彰受賞者 おめでとうございます。

北澤 良祐 さん (城陽市)
堀井 良純 さん (城陽市)

森上 翔太 さん (木津川市)
川嶋 裕貴 さん・瑠美 さん (久御山町)

吉川 和孝 さん・奈々 さん (久御山町)
畑 康久 さん (和束町)

平成30年度 新規認定京都府農業士 よろしくお祈いします。

◎指導農業士

氏名	市町村名	部門
森本 佳秀 さん	和束町	茶、注連縄加工

◎女性農業士

氏名	市町村名	部門
谷口 直美 さん	南山城村	茶、水稲

◎青年農業士

氏名	市町村名	部門
上田 芳樹 さん	久御山町	野菜、水稲
戸田 信市 さん	久御山町	野菜、水稲
二木 聖吾 さん	久御山町	野菜、水稲

「京のやましろ農業応援隊」が活動中

農業者の規模拡大、経営改善や多角化などを支援することを目的に、活動しています。

商工会の経営支援員、JA、市町村、京都府が連

携し、各種補助事業説明会や意見交換会の開催など、応援隊メンバーの専門性を活かして、幅広い農業者

支援を行っています。

お知らせ

(センターの取組)

◎就農相談会

毎月第3木曜日開催

◎平成31年度就農者基礎講座

平成31年6月から開催予定

※詳細は、普及センターまでお問い合わせください。

昨年は台風21号をはじめ多くの自然災害が起こりました。被害に遭われた方には心からお見舞い申し上げます。普及センターは今後も被災対策の他、技術支援等を行っています。